Assumption

School Report

聖母被昇天学院 学院報

No.10
2010/7/9

- Kindergarten
- Primary School
- Junior & Senior High School

楽しいイベントがいっぱい また一つ素敵な思い出が増えたね！

Assumption Kindergarten

親子そろって大奮闘

ふれあいスポーツデー
2010年5月30日（日）

当日は朝からよいお天気で、園児たちは家族と一緒に楽しい1日を過ごしました。

まずは全員で「たけのこ体操」と「あひるのダンス」です。この日のためにしっかりと練習した園児たちは、最高の笑顔で披露してくれました。

年少児はチームカラーのマントを着てスーパーマンに大変身し、パパやママに抱っこしてもらってブーンと一回りしたり、足に乗ってペンギン歩きをしたり。年中児は親子で1枚の大きなパンツを履いて走る「デカパンレース」に挑戦しました。年長児の「クラス対抗リレー」も親子そろって大活躍。年長児による「パラバルーン」では、子どもたちが大好きなドラえもんの曲に合わせて先生方も一緒に踊りました。

みんなで遊ぶと楽しいね！

年長児園外保育（須磨水族園）
園外保育（万博公園）

2010年5月13日（木）、年長児だけで観光バスに乗って須磨水族園へ行きました。園内では大きな水槽を泳ぐ不思議な魚を見て驚いたり、喜んだりと大興奮。イルカのショーではかわいい演技に拍手喝采です。お昼にはお弁当やおやつを食べ、みんなで楽しく過ごしました。

続いて、5月27日（木）と28日（金）は、縦割りクラスで2日に分けて万博公園へ。年少児はペアのお兄さんやお姉さんと手をつなぎ、太陽の塔を見たり、お船の遊具で遊んだり。帰る時間になっても「もっと遊びたい」「また一緒に来たい」という声が。みんな本当に楽しかったんだね。

初めてのお祈り

マリア様行列
2010年5月26日（水）

初めて園児そろって聖堂に入り、いつもみんなを見守ってくださるマリア様に、一人ひとりお家から持ってきたお花をささげました。年少児もなかよしペアのお兄さんお姉さんに教えてもらいながら、上手にお花をささげられました。そして、シスターのお話を聞いたり、心をこめて聖歌を歌ったり、お祈りをしました。

毎日が家族団らん。学校はもう一つの〝お家〟。本当の姉妹のようにいつまでも仲良くいたいね！

Assumption Primary School

豊かな人間性を育む
伝統の縦割り教育

学年、クラスを飛びこえ こころを一つに！

小学校では、学年や学級の枠をこえ、集団の中で自主性や社会性を身につけさせています。その第一歩となるのが「入学式」で、6年生がお世話係として新1年生をやさしく導き、ていねいにサポートしています。今年も入学したばかりの1年生は、お姉さんたちに手を引かれ、入学式会場へ。ちょっぴりはにかみながら行進する姿は微笑ましくもあり、頼もしくもありました。

そして、6年生と1年生の関係は姉妹学級へとつながります。たとえば、姉妹学級交流会では、1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生が一緒に昼食を食べたり、遊んだり。また、4～6年生がクラスごとにお店を企画して1～3年生と楽しむ「アサンプションカーニバル」も本校が誇る伝統行事の一つです。上級生が下級生を大切にし、下級生はあこがれの上級生を敬いながら、豊かな人間性や他者への思いやりの心を育てています。

4月8日(木)の入学式で、新1年生のお世話をしてくれた6年生の作文を紹介します。

お勉強＋お世話（R.Sさん）

プレオでペアの子を待っているとき、私はきんちょうして、足ががくがくとしていました。ペアの子は5年生のときに学校を案内した子でした。私はとてもびっくりしました。お母様は最初から私の名前をごぞんじでした。お母様から「○○をどうぞよろしくお願いします」と言われました。私は「学校のことをしっかりと教えたい」と思いました。この1年生をりっぱな人に。この1年間、お勉強＋お世話、がんばります。

きんちょうした入学式（M.Oさん）

体育館に着いたらペアの1年生の手のにぎり方が強くなりました。その子がきんちょうしているのがすぐわかりました。私は「大丈夫だよ。お姉ちゃんもいるからね」と言うと少し安心したのか、手をにぎる力が少し弱くなりました。1年生が早く学校になじんでくれたらいいのになと思います。それには6年生ががんばって、いっしょにゴールをめざしてあげた方が早く学校になじめると思いました。

かわいかった1年生（Y.Nさん）

今日から6年生。でもペアの1年生と初めて会う日だったから、私は朝からどきどきしていました。プレオに着くとこ動が速くなってきました。ペアの子にバッチをつけてあげて教室に行きました。私が「好きな色は？」「おたん生日はいつ？」などと聞くうちに、あっという間に話がつきてしまったら「何歳なの？」とその子から話しかけてくれました。私はとてもうれしくて「12歳だよ」と元気よく答えました。

特別な日（M.Sさん）

4月8日は特別な日。私が6年生になれる日。ということは、ペアの1年生に会える日。「○○ちゃんのペアの6年生」と呼ばれるとうれしくて走って行った。教室に連れて行こうとその子の手をとると、小さくてお人形みたいだった。教室も小さくてびっくりした。入学式は無事に終了したけれど、これからが本番。この1年間、姉妹学級などの学校生活が大切だと感じた。6年生になった私、もっと責任を持て。

国際交流、クラブ、宗教活動…今ある自分を最大限に表現する生徒たち

Assumption Junior & Senior High School

特別宗教活動「ハンドベル」

8月3日～7日の世界大会に向け猛練習

本校では、毎週金曜日の放課後に、特別宗教活動を行っています。この活動はクラブとの両立が可能で、希望する生徒が参加しています。今回紹介する「ハンドベル」は、元々1985年より小学校に2オクターブのハンドベルを当時の音楽クラブ活動に取り入れてきたもので、中学校高等学校でも1988年に特別宗教活動として創部。当初は校内宗教行事での演奏が中心でしたが、その後、高等学校芸術文化祭や地域のコンサートにも出演するようになりました。現在中学1年から～高校3年まで37名で活動し、聖歌隊とともに校内でのミサや音楽会をはじめ、病院・老人ホームなど地域のさまざまなところで演奏しています。

たとえば、毎年10月に行われるチャリティーコンサートでは、聖堂でクラシックや子どもたちの大好きなアニメソングなど、心地よい演奏を聞かせてくれています。クリスマスの時期には、阪大病院小児科病棟訪問や、箕面メイプルホール、箕面市民活動センターなどで演奏を披露。校内だけでなく、広く地域の人々にも楽しんでいただいています。

そして、今年度は8月3日～7日にグランキューブ大阪（大阪国際会議場）で、「第14回ハンドベル世界大会」が開催されます。この世界大会は、2年に1度、連盟を持つ6カ国の持ち回りで行われるもので、世界各国のハンドベル愛好者が集い、ベルの演奏だけでなく演奏者同士の親睦や文化交流も兼ねて開かれるものです。

1998年に千葉県幕張メッセで開催された時、本校からは卒業生2名と在校生10名が初めて参加。今年は12名の高校生が参加する予定です。テーマは「Echoes for Peace」で、平和への願いを込め、世界中のリンガーと心を合わせて演奏。最終日にはファイナルコンサート（一般入場可）において、1000人規模の合同演奏にも挑戦します。時間のある方々はぜひご来場ください。※問い合わせは本校教頭まで。

Colum

テニス部が大活躍！

仲間のがんばりにモチベーションアップ！

4月25日、平成22年度春季豊能地区大会・ダブルスの部で、中学3年の強豪チームがひしめき合う中、本校・中学校2年の石田茜さんと東江真希さんペアが、ベスト16まで勝ち進み、5月3日に行われた北大阪大会に出場というすばらしい成績をおさめました。

中学校高等学校のテニス部は、本校の運動部の中で最も部員数が多いクラブです。これまでは比較的少人数で活動していましたが、生徒の活躍とともに昨年から少しずつ部員が増えてきました。そのため、数々の対外試合には、部内戦で成績を上げないと出場できないので、部員の意識も高まり、日曜日や早朝の自主練習も活発に行われています。

下級生は、練習はもとより、お茶の準備からコート整備まで、一つひとつを上級生に指導してもらいながらコートでは爽やかなプレーを心がけ、技術面のみならず、精神面でもさまざまな規律や自律心を養っています。みなさん、ベストシーズンを迎え、日々練習に汗を流している生徒たちを応援してください。

オーストラリア体験学習（小学4～6年）

家族としばらく離れ自立心も芽生えた！

２０１０年３月21～30日、様々な体験を通して広く国際感覚を養うため、小学４年～６年の児童がオーストラリア体験学習に行きました。これは２年に一度、小学４年～６年の希望者を対象に行っている国際交流の一つです。

体験学習の実施に先立ち、参加児童は校内で13回の事前学習会を行い、英会話学習、英語による日本文化や家族紹介の練習、現地で披露するための歌や狂言などの練習をはじめ、現地の人たちへのおみやげ作りやオーストラリアについて勉強をしました。

出発当日は、生まれて初めて両親から長期間離れるということで、不安気な児童もいましたが、数日間で元気を取り戻し、動物とのふれあいや多くの人々との出会いを思い切り楽しめたようです。

参加した児童は、帰国後、単に楽しかったというだけでなく、自立心が芽生え「本当に行って良かった」「心に残った」「達成感を感じた」などと話し、英語学習への意欲がさらに高まったようです。

小学校、中学校高等学校の海外研修について

国際理解教育Report

Assumption Primary School & Junior High School

フランス研修（高校生）

聖なる地に立ち聖母被昇天学院の精神を五感で味わい、祈りの意味を考える

本校では2年に1度、フランス研修を行っています。今年度は、4月24日～5月8日の15日間にわたり、本校の高校1年2名、2年4名、3年4名の計10名と引率教員2名がボルドーにある姉妹校を訪問。授業を体験したり、両国の学校紹介や文化交流を図ったりしながら互いに友情を深め合いました。

また、パリにある本部修道院をたずね、創立者のお墓でお祈りを捧げて、その足跡をたどることにより、アサンプションの教育方針や理念への理解を深めました。パリ市内では、ルーブル美術館やエッフェル塔、凱旋門、ヴェルサイユ宮殿などを観光し、生徒たちは大喜び。ボルドーのホストファミリー宅でも楽しい時間を過ごしました。

4月29日には、フランスピレネー山脈北麓にあるルルドアサンプション修道院を訪問。ルルドはみなさんご存じのように、この地の貧しい少女が聖母マリアを目撃、奇跡が起こったという泉があり、「聖なる場所」として世界的な巡礼地になっています。アサンプションの修道院は、この泉の真向かいに位置します。

宿泊させていただいた修道院の部屋からは、世界各国の病気の方々が、奇跡を信じて車イスで、あるいはボランティアの介添えつきで集まって来られるのが見えます。その聖歌の声やミサのようす、ろうそくの灯火などもうかがえ、祈ることの意味や目に見えないもの、科学的には証明されていないことを信じ続ける希望とはどういうものなのかを五感で味わい、深く考える時間を与えられました。

30日の創立記念日には、研修生たちは幸運にも「修道会創立記念ミサ」にあずかることができました。聖なるこの地で聖母被昇天学院の精神とともに、自分たちがどう生きるか、創立者が何を望まれているのかを真剣に考えることは、彼女たちにとって人生の大きな指針となることでしょう。

卒業生Interview

世界的ヴァイオリニストとして国内外で演奏活動

大谷 玲子さん（高校26期生）

先生や友に励まされ音楽と勉強を両立

――日本を代表するヴァイオリニストとして、本校児童・生徒のあこがれでもある大谷さん、小学校から本学院に通われているのですね。

小学3年の時にこちらに引っ越してきて転入しました。入ってみるとみんな礼儀正しく、言葉遣いもきれいだったので、子どもながらになんて躾の行き届いた学校だろうと思いました。お祈りの言葉も難しそうだったのでついていけるか不安でしたが、すぐに友だちができました。

――小学校時代から数々のヴァイオリンコンクールで入賞されていますが、習い始めたのはいつ頃？

3歳の頃で、本格的に音楽の勉強をするようになったのは小学校時代です。小学4年の時、全日本学生音楽コンクール大阪大会小学生の部で入選、その後3位、2位をいただき、中学3年で（同コンクール）中学校の部全国大会第1位になりましたが、先生方をはじめクラスのみんなが応援してくれました。中3の時、摂津音楽祭で銀賞をいただいた副賞として、オーケストラをバックに演奏しましたが、かけつけてくれたみんなの顔が舞台からはっきりと見えてうれしかったです。当時の友だちや先生方は今でも演奏会に来てくれます。

――校内で演奏されたことは？

小学校では学期末、クラスごとに誕生会があるのですが、3年の時に「みんなのために何か弾いてあげて」と先生に言われ、初めて教壇の前で演奏させていただきました。するといつのまにか隣のクラスの先生や友だちも廊下に出てきて聴いてくれました。以来、毎回誕生会で演奏するようになりましたが、クラスとかは関係なくとてもアットホームな雰囲気でした。

――ヴァイオリンと勉強との両立は？

学校の授業はとてもわかりやすく、先生方がとてもていねいに教えて下さいました。放課後や週末はヴァイオリンの練習やレッスン、ピアノや聴音のレッスンもあるので、塾など学校以外で勉強をする時間を取れなかった私でしたが、学校だけでしっかり授業についていくことができました。毎日たくさん出る宿題をする時間をつくるのは大変でしたが、休み時間に友達と一緒に宿題をしたこともありました。高校までに学んだことは、音楽家としても、一般社会人の常識としても、とても重要なことだったと今感じています。

この学校は才能や個性を引き出してくれる

――好きな授業は？

語学です。小学校では英語部に所属し、劇をしたり歌を歌ったりしていました。高校では必須科目のフランス語も大好きでした。

「あっさりした性格で気分の切り替えが早いのが自慢です。コンクールやコンサートでの集中力は聖母被昇天の学生時代につけました。なにしろ試験前は徹夜し、終わったら即ヴァイオリンの練習という生活だったもので(笑)。勉強との両立ができたのは、いつもサポートしてくださった先生方のおかげです」

先生がベルギー人のシスターでとても分かりやすい授業だったからです。私は大学卒業後、慌ただしくブリュッセル王立音楽院大学院への留学が決まり、語学をマスターする準備ができなかったのですが、高校時代に少しでもフランス語を学んでいたので、なんとか話だけは聞き取ることができました。また、語学だけでなく、どんな曲でも演奏する時は作者の心を理解しなくてはならないので、本校で学んだことのすべてが演奏活動につながっています。

――思い出の学校行事は？

小中高を通してチャリティデーですね。出店の準備や店番のほか、自分自身もお買い物をしたり、食べ歩いたり。中学時代は、毎年行われる合唱コンクールも、東京でヴァイオリンのレッスンの合間を縫って放課後の練習に参加しました。クラス一丸となってがんばることが楽しくてしかたがなかったのです。

――本校はボランティア活動が盛んですが、思い出は？

小学校にボランティア部がありましたが、希望者が多くて入れませんでした。でも奉仕活動だけでなく、道で困っている人に会ったらだれもが自然に手をさしのべられました。印象に残っているのが、近くの老人ホームへ行った時のこと。私は琴を習っている同級生と一緒に演奏にそこへ行ったのですが、入居者の方々に喜ばれ、曲の最後の部分では全員が手拍子までしてくださいました。演奏家はみなさんに聴いていただいて初めて喜びを感じるものです。今でもみなさんの温かい拍手、その時の感動は忘れられません。

「私が初めて担任をしたのが大谷さんのクラスで中2の時。大谷さんは普段おちゃめでいたずらっ子だったけれど、東京へレッスンに行く新幹線の中でも宿題をしていると聞いてびっくり。勉強と音楽を両立させて本当に偉いなあといつも感心していました」（中学・高等学校教頭／三宅理磨先生）「大谷さんが中3の時に初めてコンサートに行ったのですが、音楽に無知な私でもそのすばらしい演奏に引き込まれてしまいました。学校ではいつも明るくて、シスターたちから玲子、玲子とかわいがられていました。でも、ヴァイオリンを手に舞台に立った途端、世界的な芸術家に変身するので驚きました」（Sr.磯西美智子）

――学校のお気に入りの場所は？

いっぱいありますが今の聖堂もその一つです。中学時代にリニューアルされて、とても美しくなったので友だちとしょっちゅう行っていたら、シスターに「ここは遊ぶところではありませんよ」と叱られました（笑）。また、中学3年の時は、仲の良い友だちがコンクールに出場する私がいい成績を残せるよう、聖堂でお祈りをしてくれました。だけど、その後、堂内で〝かくれんぼ〟をしちゃったらしいのです（笑）。すぐシスターに見つかってしまいましたが、聖堂に来た最初の目的が私のためだということがわかったので、見逃してもらえたそうです。その時のシスターや友だちの温かい気持ちがとてもうれしかったです。

――印象に残っているシスターは？

留学先のブリュッセルには被昇天の修道院と学校があります。たまたま、高校時代にフランス語を教えてくださったシスターが、留学した年にちょうど現地におられて、急な家探しで困っている私を修道院に泊めてくださいました。しかも、ヴァイオリンの練習場所もすぐに見つからなかったので、学校の空いている教室まで使えるようにしていただきました。また、小学校時代の英語の先生がフィリピン出身のシスターで、あちらへ演奏に行った時はいつもお世話になっています。こうして振り返ってみると、この学校は本当に世界各地でつながっているんだなあと思います。

――将来の夢は？

現在、国内外で演奏活動を続ける傍ら、関西の大学や高校でヴァイオリンを教えていますが、今まで私が学び、体験してきたことを次の世代に伝えたいですね。もちろん、私自身もさらに精進し、その年齢にならないと表現できない曲もあるのでどんどんチャレンジしていきたいと思っています。

――最後に在校生へひと言お願いします。

聖母被昇天学院は幼稚園から高校までありますが、このかけがえのない期間にいろんなものを吸収し、挑戦しながら、じっくりと将来の夢を探してください。ここには一人ひとりを支えてくださる先生やシスターがたくさんいらっしゃいます。私がヴァイオリニストになろうと決心したのは、実はそれほど早い時期ではありません。小学校時代から専門的に音楽の勉強をしながらも、大学受験の際には学部専攻を迷うぐらい、いろいろなことに興味を持てるよう導いてくださったからです。みなさんも自分の個性や才能を見つけ、生かしていけるようがんばってください。

profile 大谷 玲子 ヴァイオリニスト（高校26期卒業）

小中高在学中から音楽を志し、桐朋学園大学音楽部を主席で卒業。同大学研究科修了。
その後、文化庁在外芸術家研修員として、ベルギー・ブリュッセル王立音楽院に学び、国内外の主要な国際コンクールにおいて数多く入賞。ソロ、室内楽など幅広い演奏活動を行なっている。現在、京都市立芸術大学、相愛大学、及び兵庫県立西宮高等学校音楽科の非常勤講師として、後進の指導にもあたっている。

学院長 Sr.中山のお話より

Sr.Nakayama speech

2010年4月26日(月)に行われた、中学校高等学校全体朝礼のお話より抜粋しています。

～自分と出会った隣人が喜ぶ時に真の喜びがある～

人は一人では真の出会いができない

今朝は神様が用意してくださった〝出会い〟についてお話しします。

みなさんはすでにいろいろな人と出会ってこられましたが、それによって良くも悪くも変わることがあります。たとえば、あの人と出会ってマイナス思考だった自分がプラス思考になったとか、あの人と出会って今まで頑張っていた勉強をする気がなくなったとか。また、書物や勉強を通して未知の世界に出会うことがありますが、一生懸命本を読み、勉強をしていてもそれだけでは本当の出会いとは言えません。

ミャンマーの非暴力民主化運動の指導者であるアウンサン・スー・チー女史は、「あなたは真の喜びを知るために隣人を必要としている。自分が隣人の喜びとなる時、初めて自身の喜びを味わうことができる」と言われました。

決して自分の命や喜び、満足だけを求めていくことが幸せなのではありません。自分を捨て、大いなる犠牲を払ったとしても、自分と出会った隣人が喜ぶ時に真の喜びがあるのです。

自分との出会いがその人の喜びになるように

みなさんが暗い顔をしている時、お母さんは決して幸せではありませんし、逆にみなさんもお母さんの体調が悪ければ、心からうれしいと思えないはずです。自分のクラスに悲しんでいる人がいても同じこと。そして、この学校に、この世界にと視野を広げ、世界に一人でも飢えて、死んでゆくような子どもがいる限り、私は幸せではありませんという気持ちが持てるとみなさんの心は気高く、真に人間的なものになります。どうか、自分自身の幸せや喜びだけでなく、自分との出会いがその人の喜びになりますようにという心を持って、毎日を過ごしてほしいと思います。新しく始まったこの1年、みなさんが日々の出会いを通して喜びに満たされますよう祈ります。

「私を幸せに導いてくださった出会い」――Sr.中山

私にも人生に大きく影響を与えた「出会い」があります。私が2歳の頃、商社マンだった父が赴任先のパリから帰る飛行機内でシスター一行に出会い、初対面ながら親しくお話をさせていただいたそうです。その中で父がもっともよくお話ししたシスターが聖母被昇天修道会のメール・マリ・ドゥニーズ総長様で、それから30年近くにわたって、父と総長様との間で深厚なる手紙の交換がされることになりました。

大人になった私が親交のあるシスターがおられるドイツの修道会に入ろうかと悩んでいたところ、父から「私とメール・マリ・ドゥニーズの出会いには神様の摂理を感じる。一度大阪の箕面にある聖母被昇天修道院に行ってみないか」と言われ、当時住んでいた名古屋からこちらにやってきました。そこでシスターに、パリの本部で撮影された父と総長様の写真を見せていただき、「これはきっと神様が私を聖母被昇天修道会に招いておられるのだ」と感じ、1976年に入会したのです。

以来、私はこの聖母被昇天修道会で幸せな日々を過ごせるのも父とメール・マリ・ドゥニーズとの出会いがあったからです。みなさんもこれからの人生の中で神様が準備してくださる一つひとつの「出会い」に心を開いてください。

学校法人 聖母被昇天学院
〒562-8543 大阪府箕面市如意谷 1-13-23
Tel.072-721-7680 (代)　http://www.assumption.ed.jp